

昔のひとのくらしのあとをさぐる（校区の主な遺跡）

■番の面遺跡（縄文時代／河内・柏原）

昭和29年、畠の開墾で縄文土器の破片が出土、翌年発掘調査おこなわれ、近畿ではじめて縄文時代の竪穴住居跡が見つかり、一躍有名になりました。土器もこの地域を代表するものとして「番の面式」と名付けられました。住居跡や土器から、東日本との文化的交流をもとに成立していることがわかりました。



番の面遺跡



京極家墓所



北畠具行の墓



長比城跡



八講師城跡

■京極家墓所（鎌倉～江戸時代／清滝）

丸亀藩2代藩主京極高豊は、丸亀藩初代高和の墓所造営を、京極家の初代氏信の菩提寺・清滝寺でおこないました。寺の景観を整え、散らばっていた初代からの18基の墓を上段に、下段には京極家を中心とした高次の石製霊屋を中心に、丸亀藩と多度津藩歴代の墓所、さらに北畠具行の宝篋印塔などを配置して、先祖の地を聖地化しました。

■北畠具行の墓（南北朝時代／柏原）

北畠具行（1290～1332）は、後醍醐天皇の重臣の公家で、元弘元年（1331）鎌倉幕府を倒すために幕府軍と戦いますが、敗北し天皇は隠岐に流されます（元弘の乱）。翌年具行は京極道誉に預けられ、京都から鎌倉に護送される途中、道誉の赦免交渉もむなしく、柏原で斬首されます。墓は16年後に建立されました。

■長比城跡（戦国時代／長久寺・柏原）

滋賀・岐阜両県にまたがる野瀬山の山頂にあり、国境警備の城として築かれました。元亀元年（1570）浅井長政の討伐に向かった織田信長は、ここを守っていた堀秀村を味方に引き入れ、落城しました。このとき信長は、長比城に宿泊しています。遺構は東と西の平坦地からなり、東側を意識した造りになっています。

■八講師城跡（戦国時代／梓河内）

集落から林道をさらに山中に入ったところにあります。八講師城のすごいところは、この尾根すべてに山を平らにして建物を建てた場所（曲輪）を配置していることです。西尾根や南尾根では広く長大な曲輪が続き、かなりの土木量が投入されて、大軍勢が駐屯したようです。このことから、八講師城は、中世北近江の戦国大名京極氏最後の当主京極高広の拠点と考えられます。

■校区のトピックス　—東山道と横川駅家—

古代国家は、全国に東海道や東山道などの七つの道と、約16kmごとに駅（駅家）を置きました。米原市内では、中世の東山道の醒井から柏原までのルートは江戸時代の中山道にほぼ一致しますが、柏原では丸山から清滝を通り成菩提院付近を通過しました。米原に置かれた横川駅は、醒井と梓河内の二説があり、梓河内には「馬屋ノ谷」「馬屋ノ谷口」の地名があります。



【資料館を利用しよう!】

柏原宿歴史館

(米原市柏原210)

開館時間：9:00～17:00

休館日：毎週月曜日、祝日の翌日、年末年始

入場料：一般 200円、小人 100円 ※団体割引あり

学校のまわりの宝物⑨

柏原小学校区

親子探訪ノススメ

【校 区】

長久寺、柏原、須川、大野木、清滝、梓、河内

平成29年度埋蔵文化財公開活用事業

校区のようす

校区は米原市の東部にあたり、北に伊吹山、南に鈴鹿山系の靈仙山を望む場所にあり、柏原・梓・河内の山地部と、二つの山地にはさまれて細長い形をした長久寺・柏原の地峡部、山東盆地独特の野瀬山や清滝山という独立した山塊の麓に展開する大野木・須川・清滝からなります。また、旧中山道沿いに発達した地域であり、とくに江戸時代には宿場町として栄え、東へ西へと多くの人々がこの地を通り、賑わいを見せました。現在でも、校区内を名神高速道路・JR東海道線・国道21号・東海道新幹線が通り、まさに日本の交通の要所となっています。地域を貫流する天野川は、伊吹・靈仙の両山系の石灰岩地帯を流れ、水清く、渓流魚や淡水魚、水棲昆虫の宝庫で、ホタルが飛び交う自然豊かな土地です。

校区のあゆみ

近畿で初めて縄文時代の竪穴住居跡が発掘された番の面遺跡は、清滝山から採れるチャートで石鏃を作っていた集落で、東西日本の接点という立地を利用して交易をおこなっていました。南北朝時代の婆沙羅大名・京極道誉や、関ヶ原合戦の際に大津城に籠城して西軍を足止めにした京極高次が出た京極家の本拠地は清滝で、地区内を東山道が通り、菩提寺・徳源院には中世からの歴代の墓が並びます。江戸時代に整備された中山道は、宿場の町並みが残っていて、伊吹もぐさで知られた亀屋左京商店、常夜燈、松や楓の並木、寝物語の里など見どころ満載です。



長比城からみた柏原宿



寝物語の里



成菩提院



大野木豊年太鼓踊

※校区:昭和30年代の1~3つの旧村を範囲とし、地域性や歴史をもっともコンパクトにあらわします。



柏原小学校区アラカルト

【街道】中山道柏原宿 (柏原)

戦国武将がしばしば宿泊休憩に利用した地で、将軍の宿泊所お茶屋御殿も設置されました。町並みは中山道では近江一といわれるほど長く、神社7社と、かつては30の寺院がありました。広重の絵に描かれている、伊吹もぐさを商う「亀屋左京」が宿場の面影をつたえます。

【伝説】寝物語の里 (長久寺)

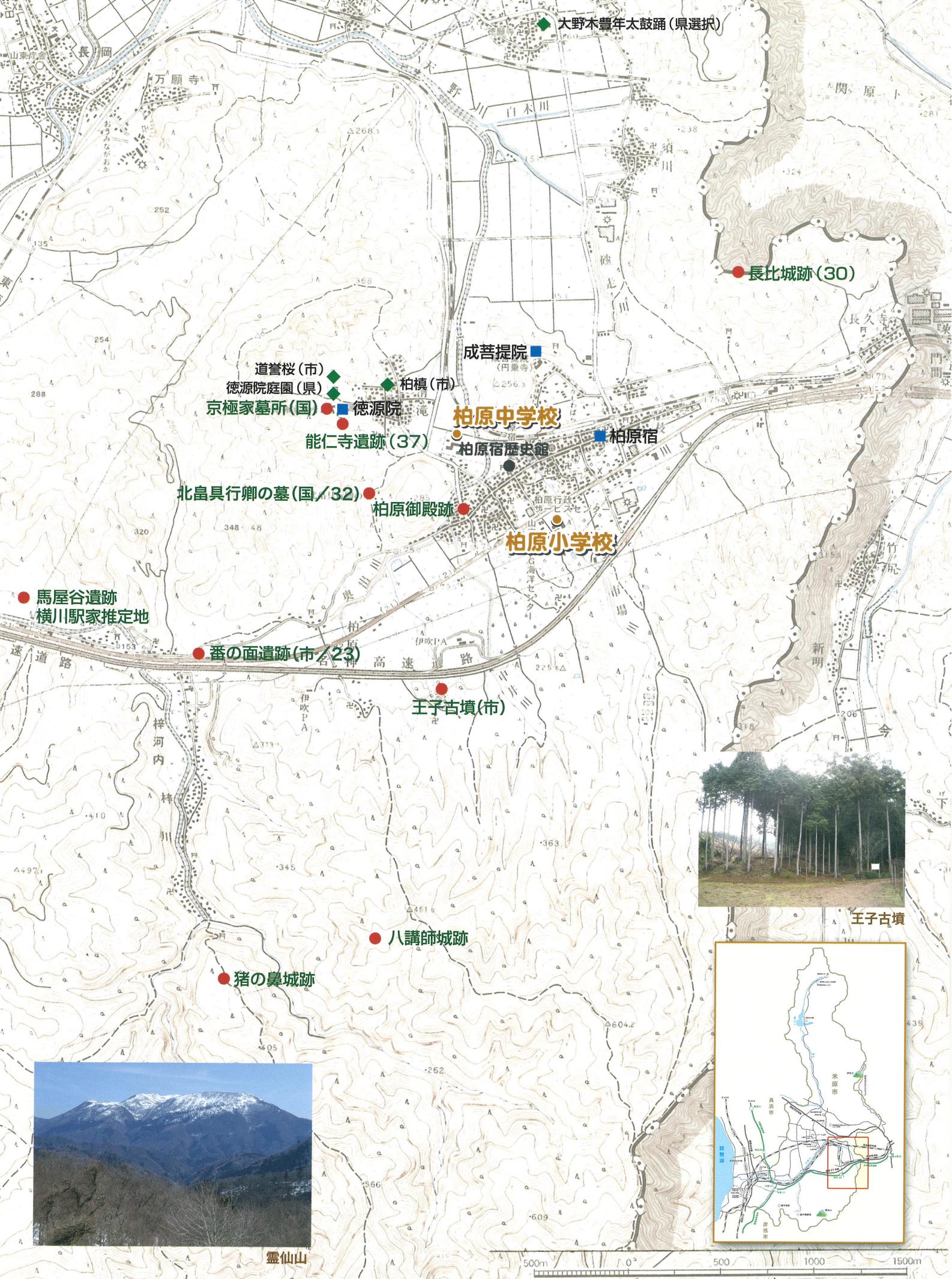
近江と美濃の国境の小さな溝を隔てて並ぶ二つの旅籠に泊まった旅人が、壁越しに寝ながら話をしたという伝説から「寝物語の里」と呼ばれます。京都から奥州へ落ち延びた源義経を追う静御前が長久寺で宿をとり、隣の美濃側の宿には義経の家来の源造が泊まっていて奥州に連れて行ってほしいとお願いした話が知られています。

【寺社】成菩提院 (柏原)

弘仁6年(815)、伝教大師最澄の開基とされます。戦国武将の保護が厚く、永禄11年(1568)、織田信長が足利義昭を伴って京都への行き来で宿泊しています。天正10年(1582)には丹羽長秀や羽柴秀吉(豊臣秀吉)が、同18年・文禄2年(1593)にも秀吉が宿泊しています。関ヶ原の戦いの前には小早川秀秋が宿とし、関ヶ原の戦いで勝った家康から兵糧米や木材が寄進されました。

【まつり】大野木豊年太鼓踊 (県選択文化財)

干ばつに悩まされていたとき、八相大明神に雨乞い踊を奉納したのが始まりといわれ、寛政2年(1791)に雨乞いをして、翌年に返礼踊を奉納した記録がござります。雨乞いは、集落の東の大峰山山頂や山麓の大滝神社でもおこなわれました。かつて踊られたホーロー踊りは西美濃地域に伝わり、大野木は東へ太鼓踊が伝わる窓口でした。



☆遺跡名のあと(番号)は、米原市遺跡リーフレットに対応しています。★遺跡リーフレットは、伊吹山文化資料館にあります。